

総務部門
管理部

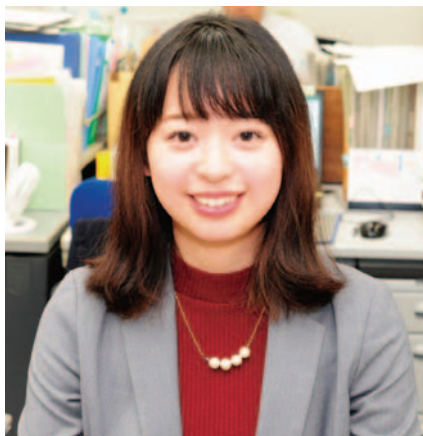
国会議員が議員としての活動を十分に行うため、参議院には、議場(本会議場)を有する国会議事堂(本館)を始め、委員会を行う委員会室のある分館、議員事務室のある議員会館、議員宿舍等の多くの施設・国有財産があります。それら施設・国有財産の維持・管理・運営等を行うのが管理部の仕事です。

管理部には、管理課、営繕課、電気施設課、自動車課の四つの課があります。

管理課は、国有財産に関する事務、議員宿舍や公務員宿舍の維持・運営や入居・退去手続等に関する事務などを行います。

また、国会法第132条の2には、「議員の職務の遂行の便に供するため、議員会館を設け、各議員に事務室を提供する。」と規定されており、参議院にも国会議事堂に隣接して議員会館が建てられています。現在の議員会館の運営・維持・管理は民間事業者により行われていますが、管理課はそれらが適切に行われているか監視する役割も担っています。

そのほか、営繕課は建築、機械及び衛生施設の管理、電気施設課は電気施設及び通信設備の管理、自動車課は公用車の管理・運転業務を担っており、参議院の活動を技術面からバックアップしています。



上谷田 千菜

(かみたにだ ちな)
平成21年入局

管理部
管理課

私が所属する管理課宿舎係では、議員宿舎や職員宿舎の維持・運営の管理、職員の入居又は退去に関する事務手続や居住者データの管理等を行っています。私は主に入退去手続の案内や宿舎使用料の計算・管理を担当するとともに、係の窓口として宿舎に関する様々な相談への対応も行っています。

例えば、職員が宿舎を退去する際には、原状回復する必要があるため、実際に宿舎に赴いて修繕の必要がある箇所を確認します。修繕業者に対する指示、工事の日程調整や進捗状況の管理のほか、工事後に修繕箇所の確認を行います。次に入居する職員が気持ちよく住むことができる環境の整備を常に心掛けています。デスクワークだけではなく、宿舎に赴く業務や業者との関わりも多い点が魅力の一つであり、日々緊張感を持って業務に取り組んでいます。

入居者の募集の際には、法令や貸与基準等に基づき、最も入居の必要性が高いと認められる職員に貸与を決定しています。係内で毎回慎重に検討を重ね、入居が決まらなかった職員にも納得してもらえるよう、公正・公平な対応を常に心掛けています。さらに、職員が入居した後も、宿舎係には設備の不具合や模様替えの申請など、宿舎に関する様々な相談が寄せられます。一人一人の日常生活に関わる業務が多いため、相手の立場に立って話を聴くことを意識しています。

また、議員宿舎については、実際に宿舎内で働く職員と情報を共有しつつ、入退去及び使用料の管理を行っています。議会運営に直接関わる業務ではありませんが、間接的に議会の活動をサポートできる点にやりがいを感じています。

なお、私には1歳の子供がいますが、上司や同僚の理解と協力があるおかげで、仕事と育児の両立ができています。上司への報告・連絡・相談や、係内での情報共有を普段から行うことにより、保育園から急な呼び出しがあったり、子どもの看護が必要になった際にも、係の業務が滞らないよう気を付けています。

私は、入局後、庶務部、国際部、そして、現在の管理部と、様々な業務を経験しました。それぞれ業務内容は異なるものの、どの部署も国会を支える重要な役割を担っていると考えています。

参議院事務局職員

Q&A

Q 参議院事務局を選んだ理由

公務員について調べる中で国会職員の仕事を知り、これまでテレビや教科書の中の世界でしかなかった国会が自分の職場になることに憧れを持ちました。当時は高校生であり、国会や政治に関する知識も乏しかったところですが、一生懸命勉強して受験に臨みました。

Q 仕事のマストアイテム

卓上カレンダーです。毎月の入退去募集の締切りや書類の提出期限を一目で把握することに役立っています。



Q 入局前後の職場の印象

入局前は国会職員とはどんな仕事なのか、まさにこのパンフレットを何度も読み返し、必死にイメージを膨らませていたことを覚えています。実際に入局してみると国会職員といっても様々な業務があり、どの部署においても国会運営に関わることで独特の緊張感があると感じました。それが日々のやりがいにもつながっています。

受験生へのメッセージ

参議院事務局はその時々のライフステージに応じて、職業生活と家庭生活の調和を図ることができる環境が整っています。皆さんと共に働ける日を楽しみにしています。



総務部門
国際部

他国の議会との議会間交流、駐日大使等の議長訪問、参議院議員団の海外派遣、国際会議への参加など、参議院には諸外国と多くの接点があります。

国際部には、国際交流課及び国際会議課が置かれ、こうした院や議員の国際交流に関する事務を担い、参議院と国際社会をつなぐパイプ役として機能しています。

国際部に配属されると、部全体の庶務に関する事務を始め、外国議員団の訪日招待、議員の海外公式派遣の準備等、多様な事務を行うこととなります。



八木 香音

(やぎ かのん)
平成27年入局

国際部
国際交流課

私が所属している国際交流課では、外国議員団の訪日招待や外国要人の議長訪問、外国からの来客の国会案内、議員の海外派遣や個人渡航に関する業務を行っています。各国議会との交流は、相互理解や関係強化等につながる非常に重要なものであり、その一端を担う重責を強く意識しながら、日々の業務に取り組んでいます。

私が経験した業務の中で特に印象に残っている案件は、着任直後に担当したイラン・イスラム共和国の外交官候補生一行に対する国会案内です。私自身が一人で案内できるレベルまで知識がなかったため、一行が訪日する前から入念に準備を行いました。通訳を介しつつ、いかに分かりやすく説明するか、検討と試行錯誤を繰り返しました。当日は緊張しましたが、事前の念入りな準備が功を奏し、一行に御満足いただけたのは良い思い出です。

そのほかにも、トルコ共和国駐日大使の議長訪問、各国議会の議長から送付された書簡の翻訳、議員の海外派遣などの業務も経験しました。特に議員の海外派遣の支援業務は、公用旅券、査証や航空券の手配、外務省や航空会社との連絡調整など、1〜2か月ほどの期間をかけて行います。その間にも国会案内など、他の多くの業務を同時並行でこなす必要があるため、優先順位を決めて業務に臨むことを心掛けています。

このような貴重な経験ができるのは、国際部ならではのことであり、とてもしっかりとやりがいを感じます。まだ経験したことがない業務にも十分に対応できるよう、これから更に研鑽を積み重ねていきたいと考えています。

参議院事務局職員

Q&A

Q 参議院事務局を選んだ理由

業務説明会で若手職員の方の話を聴く機会があり、他の機関ではできないやりがいが多い職場であると考え、参議院事務局で働きたいという思いが強くなりました。また、日本の歴史が刻まれる職場で仕事ができるという点もとても魅力的でした。

Q 入局前後の職場の印象

入局前は、厳粛な堅い職場だと想像していましたが、実際は想像よりも明るく和やかな雰囲気職場でした。業務の中で分からない点があっても、上司や先輩職員から丁寧に説明してもらえたため、入局したばかりの時期も不安を抱くことなく仕事に取り組むことができました。

Q 仕事のマストアイテム

マストアイテムは電子辞書です。翻訳業務等を行う際に電子辞書は重宝しています。今後も、業務にいかせるよう英語の勉強を継続するとともに、国会に関する知識も増やし、国会職員としてより成長できるよう日々精進したいと考えています。



受験生へのメッセージ

公務員にも様々な種類があり、どこを志望するか悩まれることも多いと思います。就職は自分の人生を左右する重要な場面ですので、慎重に考えることが何より大切ですが、私のように一次試験合格後に第一志望を決めた者もいますので、まずは多くの試験を受けて自分の選択肢を広げておくのも一案ではないでしょうか。その上で、選択肢の中に参議院事務局も入れていただければ、とても嬉しく思います。



イラン外交官候補生一行と